

- 調査時点／令和3年9月1日
- 調査対象／当所管内の中小企業者等139社
- 回答企業数／138社(回答率99.2%)

*DI値(景気動向指数) $DI=(\text{増加・好転などの回答割合})-(\text{減少・悪化などの回答割合})$

DI値は、売上、採算、業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

概況〈今期(令和3年7月～9月期)の概要〉

景気判断DIは、回復の兆しがみられるものの、先行きは感染収束が見通せず、厳しい見方が続く。

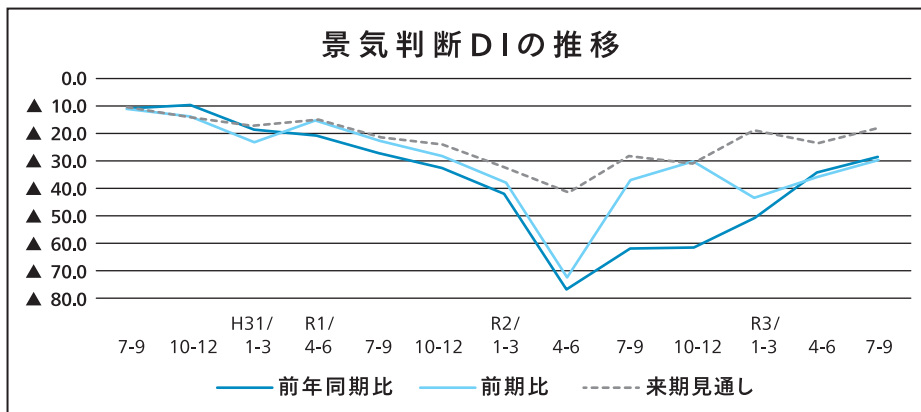


景気判断DIは、製造業を中心にマイナス幅は縮小し、改善がみられるものの、まん延防止等重点措置発出の影響により、卸売業においては、前期比と前年同期比ともにマイナス幅が拡大、小売業においても前年同期比でマイナス幅が拡大している。



先行きについては、製造業、建設業、サービス業で回復の動きがみられるものの、度重なる時短要請など新型コロナウイルス感染拡大防止対策の強化が継続されたことによる影響を受け、集客率の悪化や売上高の低迷など、先行きは依然として厳しい見方が続いている。

① 管内景気動向 景気判断DI(「上昇した企業割合」-「下降した企業割合」の指数)



前年同期比ベース

▲28.3(↑5.3)

前期比ベース

▲28.3(↑6.7)

来期(先行き)見通し

▲17.4(↑6.0)

② その他DI

業況判断DI

前年同期比 ▲31.2(↓ 4.2)

前期比 ▲23.9(↑ 2.4)

来期見通し ▲18.8(↑ 2.4)

売上高DI

前年同期比 ▲29.0(↓ 9.3)

前期比 ▲26.1(↑ 9.7)

来期見通し ▲17.4(↑ 7.4)

雇用DI

前年同期比 10.1(↑ 5.7)

来期見通し 10.9(↑ 2.1)

採算DI

前年同期比 ▲27.5(↓ 5.6)

来期見通し ▲20.3(↑ 5.2)

業種別景気判断天気図

業種	前年同期比	前期比	来期	コメント
製造業				・ウッドショックの影響で木材の価格が高騰。品薄でもある。そのため、仕入れの金額が上がり、売上が伸びても採算を取るのが難しくなっている。(製材) ・外食の動きが悪いので売上が上がらない。(食品)
建設業				・木材、コンクリート等の価格高騰が発生している。(木材は調達困難)現場でコロナが発生した場合は、現場を止めなければならず、工期延長による労務費増の状況である。(総合工事) ・現在まで売上はほとんど変わらず、コロナ禍の影響はない。(設備工事)
卸売業				・求人にも苦労している。(衣類)
小売業				・長雨でエアコンの動きが鈍い。メモリー不足でエアコンの在庫がなかったのも痛い。飲食店の自粛で店舗消耗品の需要が減った。(家電製品) ・今年の8月は昨年より厳しい影響を受けている。お酒が悪者になることに憤りを感じるが、色々な対策を早期に進めてほしい。(酒店) ・コロナで苦しいのは全事業。飲食業だけ補助金を出すのはおかしい。(化粧品販売) ・コロナ対策のため、売上低迷し厳しいが、空調設備を変更。ワクチン接種により、人手が戻ることを期待している。(婦人服)
サービス業				・7月はよかったが、コロナ感染対策の強化により8月の売上が減少している。(エステティック) ・旅行業の回復の兆しは見えてこない。(旅行) ・コロナの影響により、宿泊業界は厳しい。(ゲストハウス)
その他の業				

凡例					
	特に好転	好転	不変	悪化	特に悪化



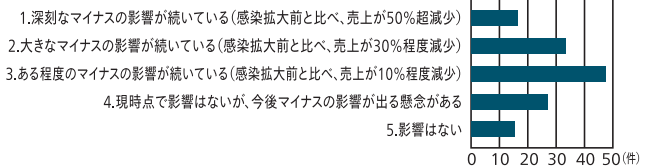
トピックス

(回答企業: 138社)

● 新型コロナウイルスによる経営へのマイナスの影響について

最も回答数が多かったものは、「ある程度のマイナスの影響が続いている(感染拡大前と比べ、売上が10%程度減少)」で47社だった。次いで、「大きなマイナスの影響が続いている(感染拡大前と比べ、売上が30%程度減少)」で33社、「現時点で影響はないが、今後マイナスの影響が出る懸念がある」が27社であった。マイナスの影響が出ている、今後出る懸念があると回答したのは全体の89%であり、影響はないと回答したのは11%であった。

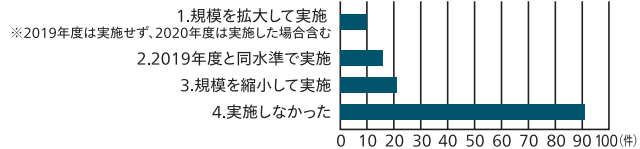
新型コロナウイルスによる経営へのマイナスの影響について



● 2019年度と比較した場合の貴社における2020年度の設備投資(国内・海外問わず)について

設備投資の実施について、最も回答数が多かったものは「実施しなかった」で91件だった。次いで、「規模を縮小して実施」が21件、「2019年度と同水準で実施」が16件、「規模を拡大して実施 ※2019年度は実施せず、2020年度は実施した場合含む」が10件であった。

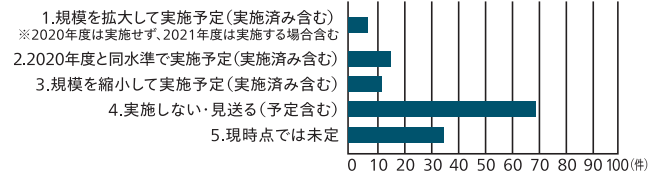
2019年度と比較した場合の2020年度の設備投資について



● 2020年度と比較した場合の貴社における2021年度の設備投資(国内・海外問わず)について

回答数が多かったものは、「実施しない・見送る(予定含む)」で69件、次いで「現時点では未定」で35件、「2020年度と同水準で実施予定(実施済み含む)」が15件、「規模を縮小して実施予定(実施済み含む)」が12件、「規模を拡大して実施予定(実施済み含む) ※2020年度は実施せず、2021年度は実施する場合含む」が7件だった。

2020年度と比較した場合の2021年度の設備投資について



※詳細は、高松商工会議所ホームページ(<http://www.takacci.or.jp/>)をご覧ください。

お問い合わせ先

総務会員部 会員活動推進課

TEL 087-825-3501

E-mail kaiin@takacci.or.jp